

今年の粗飼料の使い方

(その二)とうもろこし編)

今年 は天候不順の影響で粗飼料の不足や品質低下を心配する声 が聞かれます。

今月 は、先月の牧草編に続きサイレージ用とうもろこしの使い方について考えたいと思います。

一 生育及び作業の経過

・ 播種作業はほぼ平年並みに終わったが、六月の低温・日照不足で生育が停滞し、雄穂や絹糸の抽出期が一週間程度遅れた。加えて、八月中旬の日照不足が受粉に影響を与え、不稔が多く見られた。

・ 八月中下旬の台風により沿岸部では塩害が見られた。また、多くの圃場で葉の損傷が認められた。葉にごま葉枯れ様の症状が多く見られたが、菌は検出されておらず、養分吸収不足と推測された。

・ 登熟は八〜九日遅れたが、ほぼ黄熟期に達した。収穫期は一週間程度の遅れとなった。

二 収量(表一)

・ 生収量は、四〇〇kgと平年の六九%となった。

・ TDN収量は、六〇kgと平年の五七%となった。

以上のよう に、大幅な減収となったため、サイレージ確保量の不足が心配されます。

三 栄養価

中西部支所管内の収穫時分析データから、今年の傾向を見てみましょう(表二)。

・ CP、TDNはそれぞれ全道対比九七、九八%とほぼ全道並みであった。

・ NDFは全道対比一一〇%と高く、デンプン含量は全道対比七八%と大幅に低い状況であった。特に最大値と最小値の差が大きいが特徴であった。その理由として、八月上旬の台風による塩害や倒伏で未熟のまま

表一 H28年中西部支所管内の収量調査結果
(市町村、JA、普及センター調査による)

| | H28 | 平年 | 平年比 |
|-------|-------|-------|-----|
| 生収量 | 4,001 | 5,828 | 69% |
| TDN収量 | 601 | 1,058 | 57% |

※収量はkg/10a

収穫した圃場や、長雨・日照不足により受粉がうまくいかず子実収量が減少した圃場では、茎葉部の割合が高いためNDFが高く、平年並みのデンプン蓄積が得られなかったことが考えられた。

表二 平成28年度とうもろこしの収穫時分析値
(釧路中西部管内、ホクレン受付分 17点)

| | 平均 | 最大 | 最小 | 全道平均 | 全道対比 |
|-------|------|------|------|------|------|
| CP% | 7.6 | 8.0 | 7.0 | 7.8 | 97% |
| TDN% | 69.5 | 71.9 | 65.9 | 71.2 | 98% |
| NDF% | 47.4 | 54.5 | 42.8 | 42.9 | 110% |
| デンプン% | 21.1 | 29.4 | 10.5 | 26.9 | 78% |

以上の結果は、あくまで収穫時点での傾向ですので、サイレージとして使用する際はサイロの開封後に粗飼料分析を行い栄養価の把握に努めましょう。

四 粗飼料利用計画を立てる

・ 今年の在庫量を確認し、不足が見込まれる場合は①購入、②給与量の調整、③給与期間の短縮を検討し、年間計画を立てましょう。

①購入する場合

飼料会社等から供給量や価格、

品質の情報を収集する。

② 給与量を調整する場合
種付け前の牛や高泌乳牛に重点的に給与する。または、エサの変動を防ぐために通年で一律に給与量を減らす。

③ 給与期間を短縮する場合
最もエネルギーを必要とする厳冬期を中心に給与する。

代替となるエネルギー飼料(圧片とうもろこしなど)やグラス等の確保も必要です。対応が後手に回らないように早めに手を打つことが重要です。

五 その他

次の点にも留意しましょう。
・ 滞水が見られた圃場では、排水改善対策(サブソイラ施工等)を実施する。

・ 塩害を受けた圃場のサイレージは粗飼料分析でナトリウム濃度を確認する。

・ 収穫時に土の混入が懸念されるサイレージを給与する際はカビ毒吸着剤の使用を考慮する。

(平成二八年一月作成)